

Nyonyum 10号

By JICA-VOLUNTEER DAISAKU TAKAGI



大家さん家族と共に、故郷・北海道/札幌へ!?

12月中旬、ホームステイ先の大家さんご家族と共に、日本へ一時帰国をしていました。2020年2月に、東京へのツアー旅行(3泊5日)を体験しているご家族、それ以来日本の大ファンとなっていました。10泊12日、ご家族の要望を聞きながら、様々な体験をしてもらいました。常夏カンボジアに住むご家族にとって、人生初の“冬”の北海道はどのように映ったのでしょうか？

ココ(大家37歳)

パウ(妻34歳)

ウィン(娘13歳/中学2年)

一番楽しかった場所は？

- ・ニセコでの雪景色
- ・セカンドショップでの買物

- ・ニセコでの雪景色
- ・ホワイトイルミネーション

- ・ニセコでの雪景色
- ・アニメショップでの買物
- ・登別水族館



滞在初日、人生初のマイナス気温の体験。ココさんは、観光どころではなく寒さを必死に耐えていました…

初めて見る白銀の世界ニセコでは、寒さを忘れて、終始興奮！幸運にも、蝦夷富士こと「羊蹄山」をくっきりと見ることができました！様々な雪景色と共に、たくさんの写真を撮っていました。



一番驚いたことは？

- ・空港から出たときの寒さ
- ・白老で見た牛の大きさ

- ・たくさんの友人と会わせてくれたこと
- ・食事の値段の高さ

- ・藻岩高校への訪問。生徒も先生もフレンドリーだった。あと校長先生がハンサム。

日本とカンボジアの肉牛の違い



ウィンさんの「日本の学校を見てみたい」という思いを実現させるために、所属校へ。日本の制服を着用させてもらい、英語、書道、体育(バスケ)の授業を体験。双方にとって、素敵な国際交流の機会となりました！



一番おいしかったものは？

- ・和牛の焼肉
- ・焼き魚(ほっけ)
- ・クラシックビール 🍺

- ・和牛の焼肉
- ・寿司
- * カニが食べられなくて残念

- ・和牛の焼肉(ワサビ添え)
- ・焼き魚(サーモン)
- ・焼きガキ

ニセコで、抹茶と和菓子体験



居酒屋初体験。ビールの値段(カンボジアの約6倍)にびっくり！でも絶賛！

家族に大好評だった焼肉。ウィンさん、いつもそんなに食べたっけ!?



お気に入りの写真

カンボジア流「友情の証」

家族で札幌のまちを散策

白老の莓🍓ハウスにて

景色も、食も、人も、大満足の北海道旅行だったようで、どの質問にも、答えを絞り切れず困っていました。そして益々日本が好きになったご家族。帰国後、家族で日本語学習を始めています。



私の故郷で、このような交流が生まれたことに、感謝です！！



日本には、
世界文化遺産が20件、
世界自然遺産が5件
あります

カンボジアには、3つの世界文化遺産があります。

その1つ、一生に一度は訪れてみたいと世界中の旅行客に人気がある『アンコール遺跡群』を紹介します。

① アンコール遺跡群

世界文化遺産への登録は、1992年。カンボジアの北西部シェムリアップ州の北側に位置するクメール王朝時代(9~15世紀に、東南アジア・東アジアまで勢力を広げ一大王国として繁栄)の個性豊かな大小600の遺跡からなる遺跡群。



最も有名な遺跡が『アンコール・ワット』。12世紀前半に、スーリヤヴァルマン2世によって建てられたヒンドゥー教最大級の寺院。カンボジア国旗の中央にも、国の象徴として描かれています。写真左は、朝日観賞の光景。朝日に染まるアンコール・ワットの美しさは格別!!廊下や壁面に精巧に施されていたヒンドゥー教と仏教の融合文化と言われているクメール文化のレリーフ(彫刻)も、見応え十分でした。彫刻に描かれた古代神話に興味がある方は、ガイドをつけることをお勧めします。



『アンコール・トム』の中でも主要な遺跡となる**バイオン寺院**。慈悲、憐み、情け、やすらぎの表情をもつ巨大な四面像が彫られた塔が、幾つもそびえ立つ光景は圧巻。当時の生活を描いた精微な彫刻も魅力的

巨大なガジュマルの樹と遺跡が融合した神秘的な雰囲気がある

入り組んだ木の根の中に遺跡が埋もれ、崩れたがれきからは新たな植物が芽吹くさまから、ジブリ映画『天空の城ラピュタ』のモデルの一つではないとも言われています。

「第27回アンコール・ワット国際ハーフマラソン大会」に参加!! (12/4)

世界遺産アンコール・ワット遺跡群の構内がコースとなる世界的にも人気のマラソン大会。69か国から、約7700名のランナーがエントリーをしていました。多様なランナー、沿道で応援してくれた学生ボランティアやハイタッチをしてくれた子どもたち、たくさんの笑顔に包まれての“記憶”に残るレースとなりました。

↓有森裕子さんとの記念撮影



早朝 5:30 ごろにスタート!
(ここはカンボジア...予定開始時刻にはスタートしませんでした)

地雷の被害に合い、義足義手、車椅子や松葉杖を使用するランナー、ベビーカーを押す親子などと共に、快走!

豆知識

『アンコール・ワット国際ハーフマラソン大会』は、内戦後の1996年、地雷廃絶と被害者支援を目的としたチャリティーマラソンとして第1回目が開催されました。カンボジアの「平和の象徴」と言われると共に、**学校教育に体育が導入される原点**にもなったと言われています。マラソン大会が、**人々が忘れていたスポーツの楽しさと教育上の効果を再認識する機会**となり、その後、日本のNPO法人「ハートオブゴールド」の支援を得て、小学校(2007)、中学校(2016)、高校(2018)と順次、体育の学習指導要領が策定されました。しかしながら、指導者不足などの理由から、カリキュラムに体育を組み込み、授業を行っている学校はまだまだ少ないのが実情です。